

# 男子 決勝

会場 八戸東体育館

主審 岡村尚文 副審 山道律人

試合結果

弘前工業 2  $\left[ \begin{array}{cccc} 2 & 5 & -1 & 7 \\ & & & \end{array} \right]$  0 五所川原工業

## 戦評

3年連続の決勝進出を果たした弘前工業(以下弘工)に対し、3年ぶりに決勝へ進出した五所川原工業(以下五工)の対戦は平成17年以来。そのときは五工がインターハイの切符を手にしている。弘工の雪辱なるか。

第1セット、スタートは弘工山岸の速攻、五工澤田の強打で一進一退であった。しかし、弘工山口のトスワークが冴え始め、点差が広がり始めたところに、五工のサーブカットしたボールがネットを越え弘工エース小田切が強烈なダイレクトスパイクを決める。点差も4点になり五工1回目のタイムアウト。その後五工は澤田を軸とした攻撃で食いさがるものの追いつくことができない。そして弘工は小田切がサービスエース。たまた五工は12 - 18で2回目のタイムアウト。だが流れを持っていくことができず弘工が25 - 17で1セット目を先取する。

第2セットはお互い流れをつかめないまま試合は進んでいくが、徐々に弘工が抜けだし、五工は9 - 13で1回目のタイムアウト。ところがその後弘工は守りのリズムが崩れ始め、ついに19 - 19と五工が追いつく。しかしそこから弘工は底力をみせる。セッター山口が自由自在にアタッカーを操り、さらに山岸はブロックを決める。最後は弘工らしい時間差攻撃で西谷が決め、25 - 22。弘工は3年連続33回目のインターハイ出場を決めた。

(戦評者 浪打東彦)